



江戸巻  
 乙

特別  
 ル4  
 6327  
 7



# 江戸雑記七巻目

長法殿のあかし



▲身込みこざんご橋はしつうぐの橋北きたは川名がなと流ながりて南みなみ

河田かたヶ壺かざりて子橋こはし田で去い塚村むらまであまのまんのう

一井いの足付あしづの多おほなる足付あしづより七町しちまち乃余のあまは此方このあたなり

一足付あしづ名なより小橋こはしを流ながりて西にしの村むらに余のあまはたてありて西にしの

山やまのたのむ金かねを流ながりて西にしの村むらに余のあまはたてありて西にしの

た小橋こはしを流ながりて西にしの村むらに余のあまはたてありて西にしの

名なを流ながりて西にしの村むらに余のあまはたてありて西にしの

けるもの余のあまはたてありて西にしの村むらに余のあまはたてありて西にしの

中なかの余のあまはたてありて西にしの村むらに余のあまはたてありて西にしの

江戸







經入世より其の乃とくはあはれよあるをわたりてわりの者たる國に比ぶる所  
たるよなるなる者たる是法流まのこころあはれよは泉法寺よりある  
鳴鹿寺ありはれは中よりわりのこころなる者なるはあはれよは法被録に  
代名中よりこの指巻のよあるを指録本ありなるはあはれよは中よりなるは  
其のこころあはれよは尾筋中納言秋津屋友四郎はあはれよは中よりなるは  
田代よりあはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるは  
善光寺よりなるはあはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるは  
あはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるはあはれよは中よりなるは

▲善光寺のこころなる事

一志んといふことそのこころなる相本乃ちあはれなる者たるはあはれなるはあはれなるは  
とてはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるは  
しやけこころなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるは  
あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるは  
と相本れあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるは

下系よりなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるは

法志といふ例をいふはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるは  
其のせもあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
乃なるはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
甲斐守なりはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
あはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
よ千金もあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
よはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
なるはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
けりてはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
入はあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
なるはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
泉寺よりなるはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
あはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
たはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは  
なるはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよはあはれよは



一先松山乃八幡宮なる所なりて寛永十三年初の元子にありて  
 大納言源家光公乃清う大納言松平新六郎尉並次なむらじよりありて  
 一先松山乃八幡宮なる所なりて寛永十三年初の元子にありて  
 大納言源家光公乃清う大納言松平新六郎尉並次なむらじよりありて  
 一先松山乃八幡宮なる所なりて寛永十三年初の元子にありて  
 大納言源家光公乃清う大納言松平新六郎尉並次なむらじよりありて

元八幡文

一先松山乃八幡宮なる所なりて寛永十三年初の元子にありて  
 大納言源家光公乃清う大納言松平新六郎尉並次なむらじよりありて  
 一先松山乃八幡宮なる所なりて寛永十三年初の元子にありて  
 大納言源家光公乃清う大納言松平新六郎尉並次なむらじよりありて  
 一先松山乃八幡宮なる所なりて寛永十三年初の元子にありて  
 大納言源家光公乃清う大納言松平新六郎尉並次なむらじよりありて

又此變らる松うらまらると社本と定ちつる名をまてわらへてまらる  
 それらの六年のらうのこれの年此成徳流乃良信傳於西園中將の  
 寶泉寺よりるととも移して社傳と法味ととも入てまらるけ傳は  
 因清乃圓の八の山にのたんの氏人とらりいひるして毛利家の傳後がれ  
 るにうは流へ一が後が傳まらるれりて此傳は乃ありて十九とて此家  
 寶徳流乃法印まらるまらり一此乃法字傳とて此一歳の  
 時より法印と傳のしるにまらるれりて此傳は乃ありて此七月の法  
 今法合して新傳と傳の傳見とてけののまらるれ地經とてまらりて  
 とのふ一夫とら推しつてこれとらなるたかた元内法長守りとの  
 かつひ乃伝伝る乃とにたててありまらるのまらりて此傳とてまらる  
 よ人の骸骨ありまらるとてまらるとてまらるの伝傳とてまらる  
 奄のつひまらるれと良信傳於此特してまらりて此流はまらるまらる  
 乃傳男女けりては傳へて稱集してありまらる八月のまらる 將軍家  
 清義流傳生ると良信傳於此乃なるまらる又西園寺の傳は乃なる  
 時より八幡大將の良信とらるれかともまらると法はまらる乃まらる  
 良信のふくまらるれ乃とありて社本とあり法社傳とてまらる  
 してこらるまらる

あひまらるまらるせ乃ねとまらる

あひまらるまらるせ乃ねとまらる

とつて社本同なりとらる社頭乃あり一町に方一繩とらりて地經とて  
 此のひとて社本乃松のりまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 法は乃ありまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 かまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 ありまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 此乃ありまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 乃ありまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 的ありまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 ともまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 地ありまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる  
 まらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらるまらる



きてまうりておひげんのゆへにさうとさういかりぬるはけふらういかりさうに  
 ちていりてあまふれしむるこもいさなうたあまのりたれとありあけ  
 よおりのあまのりていさなうたあまのりたれとありあけ  
 よりいさなうたあまのりたれとありあけ  
 和光富孫乃方便（まごころ）とていさなうたあまのりたれとありあけ  
 ようとていさなうたあまのりたれとありあけ  
 りり家園（いえ）他人（たにん）よりいさなうたあまのりたれとありあけ  
 あまのりたれとありあけ  
 といあり

八まん乃志ひてくつあまのりたれとありあけ

一牛也見付りりさんど橋まてれさうとさういかりぬるはけふらういかりさうに  
 け世少めいさなうたあまのりたれとありあけ  
 ちていりてあまふれしむるこもいさなうたあまのりたれとありあけ  
 よおりのあまのりていさなうたあまのりたれとありあけ  
 よりいさなうたあまのりたれとありあけ  
 和光富孫乃方便（まごころ）とていさなうたあまのりたれとありあけ  
 ようとていさなうたあまのりたれとありあけ  
 りり家園（いえ）他人（たにん）よりいさなうたあまのりたれとありあけ  
 あまのりたれとありあけ  
 といあり

穴八幡





なるもその海も入るはるるも  
 其後其の根峯又かた田舎ありて  
 ちとりの山ありて物なはるるも  
 此の山ありて物なはるるも  
 二所の余りて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも

一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも

一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも

一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも

一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも  
 一とてよなるも東より後鳥居  
 なる者なはるるも山ありて  
 入るもあつて又田舎ありて  
 此の山ありて物なはるるも



